

意見・質問票【資料1】今年度の取組み状況の整理と次年度協議の方針について。ご意見、ご提案等ご記入くださいを項目ごとにまとめたものです。			
<日常の療養について>	<急変時の対応について>	<入退院支援について>	<看取りについて>
受診中断者のつなぎ直しの際、必ずしも従前のクリニックにかかるとは限らないため（移手段の問題、専門診療の必要、主治医との相性他）、スムーズなパスができるよう、診療情報提供いただけるとありがたいです。	消防も含めた搬送時からの連携も視野に入ると対応の幅の広がりや連携の深化が見込めると思います。	外来患者にかかる連携は重要な課題です。	ACP学習、事例検討会は介護事業所のみではなく医療機関と一緒にすることが非常に重要です。概念理解、プロセスから共有することで、ひとりのケースへの対応が一本化されます。
現状で定期受診ができない、不安がある事例の抽出や共有、原因の概要を把握、地域包括支援センターの認知度向上にむけた対策等の確認。	各職種の専門性や特徴については、「ジョハリの窓」のようなワークシートを各職種に記入してもらい、それを検討するのもいいのかなと思いました。	介護や在宅療養について、みさと広報大使に一役を担ってもらっても	もしもの話しをしたとしても、病気や障害についてイメージがないと具体的な話しになっていかないので、脳卒中、心筋梗塞、がんなどの疾患について関心をもってもらえると、その先につながりやすいかと思いました。
定期受診ができなくなってしまう（必要性を感じずに受診に来なくなってしまう）方で、支援者が介入している方は発見できるのですが、誰も介入していない方へどうアプローチしていくのかが特に課題だと感じています。	国が提示している地域包括ケア病棟の機能や役割を啓発していくことは良いことだと思いました。ただ、細かな受け入れ基準や入院対象者などは病院によって異なる部分もあるのかなとも思います。	入院がスムーズ、退院後スムーズに生活ができるようなツールを簡単に利用できるよう、今あるルールを整備していきましょう。	医療介護者向けの研修会や勉強会の開催は関心も高いため、ぜひ実施したい内容だと思います。
市民へ定期受診の必要性を理解してもらおう仕組みづくりは大切だと思います。と同時に、市内のケアマネを増やすことも重要と考えます。最近では三郷市外のケアマネが増えているため、市内の情報を多職種も今までより多く持たないと広められないと思います。	地域包括ケア病棟を深く知っていくことが大切だと思います。在宅生活継続のためには、訪問看護や訪問介護の人員を増やしていくことをしないと支えていけないとも思います。	医療介護それぞれがお互いを知ることでできる機会づくりとして、研修等の中でグループセッションの機会があると良いと思いました。コロナ禍でもあり、なかなか集まることができませんが、Zoomなどの機能ではグループに分かれることも可能なので、ブレイクストーミング的にできると良いなと思	自分の人生、どうしたいか考える機会はあまりなく、具体的にこうしたいと記録する機会はもっとないように思います。日本の宗教観も個別にあり、日本政府があまり立ち入ってもらいたいとも考えません。ただただアナウンスだけは続けてよいのではと考えます。
研修などを通して各職種が関われる機会をつくることは良いと思います。	研修などを通して各職種が関われる機会をつくることは良いと思います。	研修などを通して各職種が関われる機会をつくることは良いと思います。	研修などを通して各職種が関われる機会をつくることは良いと思います。
日本にはかかりつけ医がまだまだ定着していないと考えます。何か持病を持っている方は続けて治療を受けているので、とにかく医療の窓口がありますが、自分を健康と信じている方は医療の窓口が小さくなっているように思います。近所でもなくてもまずまず信頼できる医療の窓口を作っておくことを周知しておくことが大切と考えます。	生命の危機には119番で対応してもらいましょう。生命の危機が無い場合、これまでの生活をサポートするだけでは生活できない時、次の一手で生活が継続できる次の一手を学んでおきましょう。	どちらにも関われると思いますが、市民というくくりが個人的には大人をイメージしてしまっていますが、ヤングケアラーが増えていることから、子どもが介護を抱えこまなくてもいい様な、知れる機会を作るのはどうでしょうか。例えば昨年作った介護の絵本や、今年度の人生会議の絵本を用いた講演とか。	
歯科が訪問を行っていることが認識されておらず同様な課題と感ずることが多々あります。CMだけでなくもう少し周知された方がいいなと思っております。	CMが医療と介護の板挟みにならないよう、あえてCMについて啓蒙する。	退院時カンファレンス、参加できない場合の議事録をネット（MCS等）で閲覧できるとありがたい。	広報啓発部会の冊子が役立つと良いなと思いました。
主治医変更に関して、不安にならないような周知内容と情報媒体の検討。	開示情報の定期的アップデート。各職種の知識の定期的アップデート。リマインダー付き。		介護事業所向けの勉強会は実施してほしい。
MCSの認知度はまだ発展の余地があるかと思えます。	地域包括ケア病棟の活用についての勉強会は良いと思う。		市民への啓発をもっと進めるべきだと思う。
病院MSWから、定期受診ができなくなった方のケースや受診に繋がったケースの実例が聞きたい。	情報の必要な市民への認知度をあげる。		まだ啓発の段階だと感じます。
ピンポイント（利用者・家族・関わる人たち）での情報発信が重要。			
対象者へ接触した医療者・介護者が、今ある資料もしくは資料作成などで情報提供して対応する。			

市民へ向けた定期受診やかかりつけ医の重要性の啓発

【会長ご意見】

多職種で定期受診やかかりつけ医の重要性を呼び掛けしていれば啓発につながっていく

地域包括ケア病棟に関する機能や役割を知る勉強会

【会長ご意見】

研修部会でも広報啓発部会でも取り上げられるテーマ。各方面の認知度アップにつなげていきたい

退院調整ルールの周知啓発、MCSの使用法の勉強会、各職種がお互いを知ることでできる機会づくり

【会長ご意見】

病院部会側から病院長を巻き込んで、病院側の協力体制をより高めたり、ヤングケアラーに紐づけて、入退院支援に派生させていくのもひとつの案

市民啓発物として看取りについてを題材にした介護の絵本 各職種が看取りについて学べる研修会の開催

【会長ご意見】

在宅や市民向けの研修はすでに行っているため、施設での看取りについて、施設の現状を知り、事例を学ぶのもひとつの案